



ベイタウンで一番高い場所へ



ベイタウンの新しいモニュメント、シータワーの最上階に、清水建設鈴木工事長の計らいで一足先に登ってきました。前回取材（本年1月号）では、まだ建設途中でコンクリート剥き出しのシータワーにヘルメットと軍手を着用し、扉が金網になっている工事用エレベータにガタガタ揺られながら13階まで登り、寒さに震えながらの取材でしたが、今回は毎分120mの高速エレベータで、快適か

つあつという間に住居最上階の32階へ（ちなみにこのエレベータはコンピューター制御で3基設置されます）。

今回は、緊急ヘリ用のホヴァリングスペース（35階に相当）からの眺望を見ることができました。現在は工事のため手すりが付いていましたが、シータワー分譲後は手すりを撤去してしまう為、一般の人は立ち入ることができないとのこと。つまり工事関係者を除けば、この高

さからの眺望を見ることができるのはベイタウンユース記者が最初で最後ということになります。それにしても、この高さでは風は強く、手すりも無いところにメンテナンスの為に登る人はどんな気持ちでしょう？考えただけでも足がすくんでしまいます。これだけ高いと（建物の高さ102.136m・屋上施設まで含めた最高点111.336m）晴れ



た日の富士山を含め大抵のものは見ることができます。そして視線を真下に向けると、ロの字形に中庭を包み、屋根の形状にまで凝った建物を幾何学的に配置した街並み。改めてベイタウンの都市としてデザインのすばらしさを実感します。

鈴木工事長は、「外から見えられたお客さまにベイタウンを説明するとき、高いところから見てもらいながら説明すると、すぐにベイタウンの都市設計の意図を理解してもらえます。たとえば打瀬小学校は、上から見ると特徴的な建物の配置や、塀が無く地域に開放されていること、アリーナ屋上に配置されたプールなど全てが見えます。それだけでベイタウンの街並みが単にきれいな建物を並べた街でないことはすぐに分かります。」と説明してくれました。

その後21階の西向きのオープンルームをのぞいてみました。意識的に照明を落とし、ホテルのように落ち着いた雰囲気の中に入るとそこは別世界、いながらにして部屋からの素晴らしい眺めが楽しめます。「夕景や夜景、初日の出やマリンスタジアムの花火、クリスマスの時期にも訪れたい。そのためにはシータワーにお友達を作るしかないか??？」住むには超高層マンションはどうもと思っていましたが、この眺望と引き替えならいいかなと感じました。

シータワーは2001年3月下旬から引渡しが始まり、226戸が入居予定です。



取材こぼれ話：工事中の建物最上部に妖しく光る赤い光。シータワーのような高層建築物には航空機の衝突防止用に「航空障害灯」が設置されています。濃霧の時にはその赤い色が霧に反射し、赤い炎のように見えるため、たまに消防署に火事の通報があり、このシータワーでも誤報で消防車が駆けつけるという騒ぎがあったそうです。【金】

ベイトウンシニアクラブで活動して

小川 裕二 (18 番街在住)

人に、そして社会にやさしい生き方をしたいとの思いから、福祉、環境、哲学の勉強を始め、その中から、社会福祉をライフワークにしようと考えていました。そうした折に、シニアクラブ結成の話を知り、今年4月22日の結成の集いに参加、薦めもあって若輩ながら設立準備委員の一人に加わりました。

社会福祉を語る時、その対象は今や一部の人だけではありません。すべての人々の問題なのです。幕張ベイトウンのような新しい街では、主体的に、目的意識をもった地域コミュニティをつくる必要があります、また、それが可能なのではないのでしょうか。環境問題で自然の種の多様性が重要視されるのと同じように、人間の社会はいろいろな人々から構成されている、さまざまな価値観が存在するということを認め合えるような、そんな開かれた街ができたらしばらしいではありませんか。子どもも高齢者も、そして障害をもつ人も誰もがみんな対等で、そのあるがままの状態で同等な権利をもち、自立と社会参加ができればいいなあと思っています。

こうした思いをもちながら、役員の一員としてシニアクラブの活動を行っています。

このクラブの素晴らしさは、主体がいったい誰なのかを強く意識してい

ることだと思います。中心はシニアの人々であり、シニアクラブ組織でもなく、役員でもありません。決して強制的にはしることのないように、「会員の会員による会員のためのクラブ」を作ろうとしていることです。

結成間もない7月に会員全員を対象とした意識調査を実施しました。9割を超える会員から回答をいただき、ふれあいを求める声、そのための場の必要性を痛感しました。いま、調査結果をもとに、いくつかの計画が立てられています。

まず、オアシス談話室です。10月18日の午後1時から4時まで、公園西の街コミュニティールームで開催します。気軽に参加し、ここで友達づくり、おしゃべりを楽しんで下さい。外に出て、たくさんの刺激を分かち合いましょう。足に自信のない方はお迎えに伺います。時間内なら何時いらっしゃっても、何時お帰りになっても結構です。シニアのサロンから住民みんなのサロンになって欲しいと思っています。当面は、月1回、いろいろな集客室を利用させていただくことになるかと思いますが、いつでも、だれにでも自由に出入りできる場所が確保できたらとの声も、多くの会員からあがっています。みんなで活動していきたいものです。



次に、ボランティアサークルの結成を準備しています。地域の役に立ちたい、誰かの役に立ちたいとの思いをもつ仲間の組織化を図り、うまく気持ちの掛け渡しをしたいと思っています。福祉（送迎サービスや話し相手など）と環境（地域美化活動など）と教育（異世代交流など）を3本柱として、活動する予定です。既に、活動している人、サークルもあるようですが、シニアクラブでも、ボランティアの輪が大きく広がっていくことを望んでいます。サービスを受けたい方もシニアクラブの会員ではない方もどんどん仲間になってください。

この他にもたくさんの企画を立案中です。無理なく、おもしろそうだと思う行事等がありましたら、手を挙げてお知らせください。みんなで楽しくやりましょう。

いま、ベイトウンシニアクラブの中では主に福祉のソフトについて動いています。これからは福祉施設や医療施設などといったハード面にも活動の域を広げたいと考えています。6月のベイトウンフォーラムにおけるベストライフ研究会の発表（8月号参照）にもありましたように、人にやさしい街実現のためにはベイトウンがどうあるべきなのか、街づくり、コミュニティづくりについて、忙しげに悩んでいるこの頃です。でも、素晴らしい人々との出会いで、成長している自分を喜んでいる部分もあります。いくつになっても、人は成長するものですね。

この文章は、小川さんのご希望で、大きめの活字を使っています。



「安全」で 「賑わい」のある街

ベイタウンの交通問題を考える
【交通委員会 委員長：福室】

千葉県企業庁、設計者、事業者が高い志をもって入念にデザインしたベイタウンは素晴らしいハードウェアを備えています。

街開きから5年、グランパティオスなど新しい街区の完成で人口も1万に近い街になり、プロムナード沿いにも店舗が続々オープン、より賑わいを感じられるようになりました。実際に人が住み、街が自律的に鼓動をはじめると、そこにはいろいろな問題が発生します。ベイタウンでは交通問題がその一つです。

友人や親戚が気楽に訪れたり、外部の方がウィンドウショッピングを楽しんだり、軽く食事をするために車を停めることができる。これは非常によいコンセプトなのですが、実際には拡大解釈されているような問題を引き起こしているようです。「駐車禁止ではない」→「自動車を停めることができる」という図式の基に、近隣の商業設備の従業員やメッセの来訪

者が車を乗り捨てて行ったり、一部の住民の方が路上を車庫代わりに利用しているケースがあります。道路の両側の駐車車両で自動車の行き違いができない。交差点や車庫の入り口付近の駐停車で視界がきかない。バス停や横断歩道上への駐停車もある。街の中の通行速度も遅くはないし、新設される第2小学校の通学路にあたるメッセ大通りでは、フラットアウトで加速し、猛スピードで走行する車もある。

幸い、今まで大きな事故が発生したことはないようですが、人口が増え、店舗への来店者が増え、交通量の増加にともない危険性は確実に増えています。これらの問題は街を設計する段階では想定されていなかったか、想定していたとしてもあまり重視されていなかったのでしょうか。

ベイタウン自治会連合会では交通委員会を中心に、住民自身の手でこれらの問題を解決すべく活動を行ってきました。

① タウン内の路上駐車状況把握と住民への呼びかけ（車庫法違反、危険箇所への駐停車の注意）② 道路を駐車場代わりにする商業施設従業員の排除、③ RV車が駐車可能な公共駐車場の誘致など施設面の整備等を行い、十分とは言えませんが一定の成果を上げてきました。これからはベイタウンの自由な雰囲気を壊すことなく、「安全」で「賑わい」のある街にするために、施設面・規制面の各種検討を行って参りますが、私たち住民自身が最低限のルール、モラルを意識することが「安全な街」への第一歩かもしれません。



ガーデンウォーク幕張

10月26日（木）グランドオープン!!

待っていたアウトレットモール、ガーデンウォークが今月「海浜幕張南口駅前」にオープンします。チューリップやひまわり、バラの描かれた明るい建物はもう随分前に完成しているの、皆さんも、開店を心待ちにしていることと思います。ベイタウンニュースでは一足早く、ガーデンウォーク取材してみました。

“都会的だがちょっと硬くて冷たい”イメージのある幕張に“潤い”“華やかさ”をプラスするー「アーバン・フラワー・ガーデン」をコンセプトにした建物は、オープンモール型と呼ばれ、「ローズコート」と「チューリップコート」に分かれています。その2つのエリアを「サンフラワーウォーク」と名付けられた通路が結び、開放的で明るく、グルグル廻っていても迷いにくくなっています。それぞれのエリアには、音楽が聞こえるローズと、夜のライトアップが楽しめるチューリップの噴水のオブジェがあり、お友達との待ち合わせ場所にも最適です。もちろんエレベーターもあり、ベビーカーでのお散歩のついでに、ショッピングを楽しめます（駐車場は、約1,250台）。

ベイタウンニュース 36号では予定店舗数を60とお伝えしましたが、最終的に店舗数は、ヤングレディース、ミッシー・ミセス

ファッション、服飾雑貨（靴・鞆、時計・アクセサリ等）、生活雑貨、インテリア、スポーツ、アウトドア、ジーンズ、カジュアルなどが54店舗。他に飲食店がイタリアンとジェラートの2店舗が入ります。

- 営業時間は10:00～20:00。夏季など、一時的に21:00まで延長（飲食店は23:00まで）。
- ホームページアドレス：<http://www.gardenwalk-outlet.com/>
- 「Mitsui OUTLET Network カード」入会については、プレナ幕張2Fの入会カウンターまで。 【浜田】



毎号ベイトウンにお住まいの多彩な方々をご紹介します
Who's Who。今月は11番街にお住まいの土堤内 昭雄さんにご登場願った。民間シンクタンクの研究員である土堤内さんの研究テーマは「高齢化とまちづくり」だそうである。

本来都市計画が専門の土堤内さんがベイトウンを選んだ理由をお聞きすると、興味深い二つの答えが返ってきた。ひとつは、実験都市幕張ベイトウンのまちづくりに、都市計画を外部から眺めるという立場ではなく、ユーザーである住み手としてかわり、内側から実験の経過を見たい、あるいは結果を出すことに参与したいという職業的興味から。そして今ひとつは、まちづくりのプロセスに学校を組み込んだ打瀬小学校の開かれた教育に惹かれてという、お二人のお子さんの父親としての動機からということであった。

都市計画の専門家として幕張ベイトウンにお住まいの建築家はよくお聞きするが、ユーザーとしてまちづくりに参加し、実験結果を検証したいと明言される方は初めてである。これは、まちづくりは都市計画というハードウェアのプランと同時に、実際に住まう住民が作り上げる「新しい都市型コミュニティ」というソフトの部分の不可欠であるという土堤内さんのご持論によるものと推察される。なるほど大学で建築設計を学び、大手建設会社の設計者として活躍しながら、シンクタンクの研究員へと転身された理由が、実験都市のモルモットを自認する記者にも、これで少し見えてきた気がする。

入居されたときは小学生だったお二人のお子さんも、今はお二人とも打瀬中学校のサッカー部員として活躍中。そして土堤内さんご自身は、打瀬中学校パティオスの会会長として地域での子育て、教育というテーマに真正面から取り組まれている。主任研究員という非常にお忙しい生活を送りながら、パティオスの会会長としての時間を見つけるのは大変では、とお聞きしたところ、「子供が大きくなって手がかからなくなってきたこともあります。父親が子育てに関わることはとても重要です。子育てを楽しめるまち、社会が出来ればいいですね」とのこと。そして会長を引き受けるにあたっては、平日の学校との連絡業務などはE-MAILを使って効率化することを条件に引き受けられたそう。やはり熱意である。小中学生をお持ちのお父さん、成せばなる。これは重要なヒントですぞ。

「子どもを育てる『育児』は、自分の可能性を伸ばす『育自』、そして『子育て』は親子それぞれが自己を確立する『個育て』です」と熱っぽく語る土堤内さんに、恒例の撮影ポイントのご希望を伺ったところ、「それでは打瀬小学校の校庭で」と言われ、アリーナをバックにするベンチにお座りいただいた。【松村】



番街紹介 第8回 パティオス11番街

こんにちは、パティオス11番街の小谷崎（こやざき）です。平成8年4月に入居が開始された11番街は総戸数190戸、パティオスNo.1の大所帯です。建物は他のパティオスの番街と違ってコの字型ではなく、独立した建物でパティオを仕切

り、「水」と「緑」という性格の異なる2つのパティオを形成する特異な形式をしています。E・W・S・N各棟の独立性が高く、入り口は6箇所に分かれている為、宅配便やピザ等の出前の方が配達先にどう行けば良いのか分からず迷っている姿をよく見かけます。4年半住んでいても「大丈夫ですか？」と声を掛けた後、未だに一緒になって案内図を見て探す程です。建物の基本的な構想は、アメリカ人のスティーヴン・ホール氏によって立案されました。芭蕉の「奥の細道」に啓発された中庭のデザイ

ンや水中花の遊び心等、「静」と「動」、「音」などを視点のシフトで感じ取ることのできる飽きのこないパティオを“半公共的”に街の人々に通行させる事が、設計者の思想になっています。黄色を基調にした外観、侘びさびを経年劣化で味わう銅板で葺いた集会所（結婚式が挙行されたりオペラ歌手のリサイタルも開かれたりした空間です）や、池に突き出したサンライトハウス等特徴のある設計になっています。平成9年には建築学会賞を授賞しました。ところが最近、その開放されたパティオに問題が発生しています。子供達による池への石投げ・キックボード等により植栽が荒れる等々です。植栽帯に柵を作るとか、居住者以外はパティオに入れないようにするとか、管理組合を中心に住民の意見を聞きつつ問題の解決策を模索中です。とはいえ私はこのパティオを大変気に入っています。21世紀に誇れる街作りの一翼を担うパティオスの一員として、11番街の開放的な風景を今までどおり皆さんが自由に楽しめるようにモラルある散策にご協力下さい。

【パティオス11番街 小谷崎】



かるがも館よどこへ行く？

コンクリートで囲まれた街ベイトウンにあって、唯一の木造建築物としてベイトウン住民の心をなごませてきた「かるがも館」。そのかるがも館が今（9/26 現在）撤去のため解体されています。この建物は平成7年8月に当時の住宅都市整備公団（現在の都市基盤整備公団）が千葉緑化フェアのために「エコステーションかるがも館」として建築したもので、ベイトウンに来る前は稲毛海岸に建っていました。

その後、平成8年にベイトウンに移築されてからは、その親しみのあるデザインと、木造の暖かい雰囲気から、コアのないベイトウン住民共通のくつろぎのスペースとして、多くの集会や教室に利用されていました。隣接する庭の「ミニ・ビオトープ」は子どもたちの格好の遊び場だったようで、放課後、メダカやヤゴを取りにいつも子どもたちが生け垣を越えて入っては日の暮れるまで遊んでいました。しかしコア建設を来年度に控え、このかるがも館もベイトウンから撤去されることとなり、今まさに解体中という状態です。

ではベイトウンから去った後、かるがも館の運命はどうなるのでしょうか。館の撤去を惜しむ声はベイトウン住民にも強く、一時はコアの建物の一部として利用できないか、あるいはベイトウン内の他の場所に残しては、という意見もありましたが、木造の建築物では消防法上残すことは難しいという企業庁の説明の前に、結局ベイトウン内で生き続けることはできませんでした。

その後、県内外に移築の場所を求め、設計者を始め多くの方々が奔走し、一時は都内のある自治体が公園整備の一環として譲り受けるといった話がまとまりかけましたが、財政的な事情からこれも実現しませんでした。今の所引き受け手のないかるがも館は、一時公団が保管し、継続して行く先を探ることになりそうです。

そんな話を聞きながら、先日、解体直前のかるがも館で保管できない備品類の処分に立ち会いました。大きなコルクボードや素焼きの植木鉢など、まだまだ役立ちそうなものは打瀬小中学校が喜んで引き取って下さいましたが、問題は池のメダカなどの生き物でした。設計者の神谷氏はビオトープの設計なども数多く手がけ、水棲生物の生態にも詳しいので、小学校の子どもたちと池の生物の救出作戦を・・・というプランもありましたが、残念ながらこれも解体作業のスケジュールから時間切れとなり、写真のように打瀬小学校の先生方がメダカ捕獲大作戦を展開することになりました。今このメダカ君たちは打瀬小学校の中庭で元気に泳ぎ回っている筈です。メダカ救出作戦を展開中にも、池にはかるがも館の明日の運命を知らないギンヤンマが来ては、盛んに卵を産みつけていました。ベイトウンからまたひとつ、小さな自然が消えて行きます。【松村】



9/24

敬老茶話会が開かれました

ベイトウンは若い街と言われますが、高齢者の方が暮らす街でもあります。現在 70 歳以上の方が 115 人、毎年 30 人ずつ増えていくことが予想されますが、引っ越してきてもご近所と知り合う機会がない、若い人の集まりに参加しにくい、気軽に立ち寄れる場所がないなど、どうしても家に閉じこもってしまうことも多いようです。

この日は美浜区の片岡区長さんや社会福祉協議会の方、主催の連合会の役員をまじえて、どうすれば高齢者が住みやすい街になるかなど、楽しいお話のなかにも切実な高齢者の声が聞かれました。また、高齢者で作るシニアクラブ（会員 100 人）の活動も紹介され、今後はお茶を飲みながらおしゃべりができる茶話会を毎月、各集会施設を借りて開催していきたいという提案もありました。

【佐藤】



幕張ベイタウン・イベントカレンダー

10/8 (日) エコメッセ千葉「第3回ビオトープフォーラム」

幕張ベイタウンにエコパークをつくる会 TEL:211-7736

10/28 (土) 男の料理教室

ベイタウン・シニアクラブ TEL:211-7736

10/15 (日) 教育フォーラム「打瀬中学校 AT 講座」

教育フォーラム実行委員会 TEL:211-6853

10/18 (水) オアシス談話室

ベイタウン・シニアクラブ TEL:211-7736

11/10 (金) 幕張ベイタウン5周年チャリティコンサート

チャリティコンサート実行委員会 TEL:211-0472

この欄では最近に行われるベイタウン関連のイベント情報をお伝えします。紙面の関係で詳細をお伝えできませんが、詳しくは各番街掲示板等でご確認ください。また、この欄に掲載を希望するイベント情報を直接編集部宛お知らせいただければ幸いです。

景観形成の取り組み 建物の個性と統一

多摩ニュータウン ベルコリーヌ南大沢

公団では、多摩ニュータウン西部の南大沢地区で、地形と自然を活かした「美しい景観・生活機能の充実」をテーマに、街づくりを行いました。

エリアを7分割したのち、各街区ごとにブロック・アーキテクトと呼ばれる建築家が設計を担当し、かつ全体をマスター・アーキテクトと呼ばれる建築家が監修しました。

ここでは建物の個性を尊重しつつ、景観の統一を図ることを目標とし、住棟周辺には個性的な広場や、自然林の保存緑地を配しました。

良質で個性的な住宅を供給し、地形と自然に調和した美しい街並みを創り出したこの「マスター・アーキテクト方式による景観形成」は、日本都市計画学会計画設計賞を受賞しています。



都市公団

賃貸住宅のお問い合わせは

総合募集センター津田沼案内所

TEL: 047-478-3711

公団住宅の駐車場のお問い合わせは
日本総合住生活(株)千葉支店

投書から

いつもベイタウンニュース、楽しく読ませていただいています。一中略一すでに検討ずみのこととは思いますが、ベイタウンに駐在所はできないのでしょうか? 住民規模からして無理であれば、せめて管轄の警官に巡回くらいしてもらいたいものです。住みはじめて1年近くになりますが、いちども姿をみかけたことがありません。特に芝生公園付近は静かな憩いの場であると同時に人気のない危険なところ。先日も変質者に遭遇してしまいイヤな思いをしました。平和なベイタウンだからこそ、気軽に声をかけられる“駐在さん”が“ヒマそうに”自転車でウロウロしていてくれるとありがたいと思いました。(匿名希望)

編集後記

■忙しい朝の駅前、いろいろな人が困っています。

① 海浜幕張駅長さん: 車椅子通路前の放置自転車に困っています。② プレナの某氏: 自転車を放置する人を注意すると開き直られて困ります。③ 駐輪場を整理しているおじさん: 駐輪場登録をしていない自転車が毎日停めていますが注意しても無駄です。④ 企業庁幕張新都心事務所: 放置自転車を移動するとお叱りの電話を受けます。

これらは、ほとんどがベイタウンの住民によるものです。あまりのモラルの低さに心情的には蹴飛ばしてしまいたいですが器物破損と言われるでしょうね!

企画: #3 - 220 金一剛 (T:211 - 0388/ikkim@xa2.so - net.ne.jp)

■名古屋に赴任して、はや2週間がたちました。私の住む名東区藤が丘というところは、名古屋の中では比較的新興住宅街と言えるところで、地下鉄東山線の終点の藤が丘駅を中心に、にぎわいと落ち着きが程よく調和した街です。新興とはいっても、ベイタウンに比べるとずっと歴史は古く、朝の出勤のときにも交差点毎に「みどりのおばさん」がいたり、道路の落ち葉を掃いている人がいたり、ベイタウンにいたときには感じられなかった街の息遣いが感じられ、懐かしい感覚がよみがえってきました。これからは、ベイタウンの外から、外の視点ならではの関わり方をしていきたいと思います。

編集: 名古屋より、板東司 (tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■今回のガーデンウォーク幕張取材日、丁度突然、関西から知人が旅行に来て、舞浜の方で会う事になりました。ガーデンウォーク取材前なので、研究のためエキスピアリを廻ってみたのですが…建物が複雑で、随分迷いました。そのせいかガーデンウォークの第一印象は「開放的で、迷いにくい」でしたー広々とした空を見渡せる幕張名所が、またひとつ増えそうです。

記者: #公園東 浜田貴代子 (atmark@pop01.odn.ne.jp)

■今回、敬老茶話会を取材して「終戦のときにみんな泣き崩れたなんてウソ。私はもう空襲のなか逃げまどうことがないんだって大喜びしたもの」という話を聞きました。戦争体験者ならではの本音、こんな話が聞けるのも異世代交流の面白さです。子どもたちが多様性を学ぶためにも、様々な世代と一緒に何かできる機会を持つというのは素晴らしいことです。連絡から準備など実務面で活躍された民生委員の方々、お疲れ様。また、日頃の心細やかな活動に改めて敬意を表します。

タウンスケッチ記者: #3 - 310 佐藤則子 (T&F211 - 0090)

■今月は編集後記を休みます。

記者: #7-301 茂木俊輔 (T&F211 - 1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

技術: #10-612 松村守康 (T&F:211 - 6853/m - matz@mxq.mesh.ne.jp)

熱く燃えた体育祭

2学期が熱く燃えた体育祭始まり、体育祭の練習を待っていたかのように連日降り続ける雨。練習はほとんど体育館で行われ、練習不足が心配されましたが、幸運にも体育祭当日とその前の日だけ、奇跡のように太陽が顔を出してくれました。お陰で、当日のグラウンドは砂埃がたつこともなく、最高の体育祭日和となり、生徒のやる気と集中力で打瀬中の体育祭は熱く盛り上がりました。

体育祭を終えて

実行委員長 3A 中山美季

準備時間が少なかったのでもっと大変でしたが、応援団をはじめ3年生を中心に一生懸命に頑張ってくれました。全校生徒を前にして朝礼台の上に立つ時は、はじめは緊張しましたが、次第に慣れてきました。ラジオ体操の時は無償に恥ずかしかったです。前日に捻挫した足がちょっと気になっていました。予行練習が前日にあったので疲れの残っている人もいたようですが、「負けずに頑張って勝つんだ。」という意気込みがあったので、素晴らしい体育祭ができたのだと思います。

応援団長の松戸君は赤組応援団を率いて、場所をかえながらの応援。副団長の久保さんは顔を真っ赤にし、今にも倒れるくらいの大きな声で応援していました。また白組応援団は、男女の協力性が強く自分達で作った「はちまき」に思いを込めて、応援団長の山畑君と副団長の家口さんの指揮のもと一丸となって応援していました。

最後に、村田さんのスローガン「あふれる思いに力に変えて、走りとび出せ勝利のために」のように一人ひとりがそれぞれの思いを込めることのできた体育祭になったと思います。

お疲れ様でした。1, 2年生の皆さん、来年も頑張ってください。

打瀬中学校より

紅組応援団長

松戸 瑛人

今年の体育祭は中学校生活最後の体育祭になるので、団長に決まった時はみんなからのプレッシャーに少し戸惑いマクッテイタ。だけど、結果はいいから団長ツテやつを最後までやりきってやろうと決心した。今年は、体育祭までの日数が少ない。オレら紅組応援団には集中力がなく(むしろ自分が)、3日前まで何も決まらなかった。だけど、その3日ですべて覚えることができ、その上、最高のものができるようになった。当日は、かなり緊張して、覚えたことを全部忘れるかと思うぐらいだった。時間がたつにつれ、応援団も紅組生徒も気分がノレてきたのか、オレ等の出す声に答えてくれた。それが、一番うれしく思えた。得点は前半、白組に負けていた。紅組は「負けるかも」と誰もが思っていた。だけど、いつのまにか紅組がリードしていた。結果発表の時、紅組勝利が発表され、その瞬間声をあげたくなるほどうれしかった。でかい声をあげようとする自分の口を押さえるのに精一杯になるほどだった。優勝杯を受け取り「ヤッター！」の一声をあげると、みんなも応えてくれた。こんなことは、夢にも思わなかった。今年の体育祭は忘れられないものになった。3年生に協力してくれた1, 2年と応援団と一緒に楽しんでもくれたみんなに感謝の気持ちを伝えます。『ありがとう。』



白組応援団長

山畑 俊輔

まさに始業式から体育祭までの9日間は怒涛の日々だった。まず、応援団員を決め、そこから、午前の部、午後の部、男子は棒倒し、女子は棒引きの作戦を連日立て、家に帰って来られるのは夜の7時前。その甲斐あって、当日では午後の部の女子のダンス、男子の「大根踊り」と「ピラミッド」が成功し、また、女子は棒引きで勝つことができた。男子は棒倒しで負けたものの善戦をすることができた。練習では「声」が行き届かなくて苦労することもあったが、本番では副団長の家口さんや他の応援団の協力もあり最高の体育祭にすることができました。どうもありがとうございました。



@SPACE

お詫び

夏休み中に部活動の各種大会があり、各部長の感想を掲載しましたが編集の手違いで吹奏楽のみ遅れてしまいましたことをお詫び致します。

7月25日 県吹奏楽コンクール 中学校ジュニア部門

7月28日 県吹奏楽コンクール 中学校B1部門

青葉の森芸術文化ホールにて

今回出場した部門は両方とも初めてで、特にB1部門はその先に関東大会あるだけにすごくレベルが高かったです。そんな中でも最高の演奏をすることができました。銅賞と残念な結果でしたが、満足のいく音楽になったので良かったです。改めて、団体競技の難しさを感じました。でも、やり終えたときの喜びは、何倍も大きかったです。今回のコンクールのことは、これからもずっと忘れないと思います。

3A 小笠原かけひ

新人大会始まる

陸上部

9月15日、17日

青葉の森スポーツプラザ陸上競技場

3000M 1位 佐藤遼太(2年) 10' 18" 16

800M 1位 佐藤遼太(2年) 2' 09" 20

走り幅跳び 8位 内海明子(2年) 4M15

砲丸投げ 4位 尾崎友香(2年) 8M51

200M 準決勝進出 唐沢紀子(2年) 30" 08

女子4×100MR 4位

北川、武、尾崎、唐沢 55" 88

女子総合: 4位 男女総合: 5位

バスケットボール(女子)

9月17日

加曾利中学校

予選: 1回戦 打瀬○-×天戸、

2回戦 打瀬×-○土気 以上1勝1敗

この結果、決勝トーナメント出場(10月1日 真砂1中にて)

テニス部

9月16日、17日

青葉の森スポーツプラザテニスコート

男子 2回戦 打瀬3-0葛城

3回戦 打瀬2-0千葉大付属

準決勝 打瀬2-0誉田

決勝 打瀬1-2緑ヶ丘

*準優勝・・・県大会出場

女子 2回戦 打瀬3-0千城台

3回戦 打瀬2-0花園

準々決勝 打瀬0-2誉田

ベスト8

サッカー部

予選リーグ 1ブロック(打瀬, 大椎, 蘇我, 椿森)

上位2チームが決勝トーナメント進出。

9月24日 大椎中にて

打瀬3-2大椎

10月9日 蘇我中、椿森中と対戦、